

第26回 “北方領土を考える” 高校生弁論大会 記録集



目 次

1	主催者挨拶	
	社団法人 北方領土復帰期成同盟会長 堀 達也	1
2	激励メッセージ	2
	外務大臣 玄葉 光一郎	
	北海道知事 高橋 はるみ	
	北海道教育委員会教育長 高橋 教一	
3	第26回 “北方領土を考える” 高校生弁論大会実施要綱	5
4	第26回 “北方領土を考える” 高校生弁論大会プログラム	7
5	大会発表者	8
6	大会審査員	8
7	大会入賞者	9
8	大会参加高等学校	9
9	歴代応募実績校地区別一覧	10
10	歴代応募状況	11
11	第26回大会までの弁論大会記録	13
12	第26回大会までの歴代審査員一覧	17
13	弁論記録	
1	審査講評	22
	審査員長・北海道高等学校文化連盟弁論専門部部長 (北海道札幌旭丘高等学校校長) 守屋 開	
2	大会入賞者弁論内容	23
14	第26回高校生弁論大会スナップ	34
15	総理表敬訪問の記録	39
16	第27回 “北方領土を考える” 高校生弁論大会【募集概要】	44

1 主催者挨拶



社団法人 北方領土復帰期成同盟
会長 堀 達也

第26回“北方領土を考える”高校生弁論大会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、お忙しいところ、多くの方々にご来場をいただき、厚くお礼申し上げます。

本日の主役である高校生の皆さん、また、生徒指導に当たっておられる先生方には、本大会にご参加をいただき、心から敬意と感謝を申し上げます。

この弁論大会は、北方領土返還に向けた国民世論の一層の高揚を目的に、2月7日の「北方領土の日」を中心とする特別啓発期間に開催しているものです。

今大会は数えて26回目を迎え、これまで延べ371校、2,281の方に応募をいただき、高校生の皆さんの柔軟な考え方と、豊かな感性をもって、若さと熱意のある主張、提言や発表が行われ、多くの聴衆に感銘を与えてきました。

さて、一昨年11月にはロシアのメドヴェージェフ大統領の国後島訪問に続き、ロシア政府要人の相次ぐ北方四島訪問や北方四島のインフラ整備、更に、その後も北方領土問題について、我が国の主張と相容れない主張をするなど、北方四島の不法占拠を正当化しようとするロシアの強硬姿勢が目立っております。

政府においては、北方領土問題の一日も早い解決に向け、毅然とした姿勢で強力な外交交渉を推し進めて頂きたい。

皆様には、北方領土返還に向けた強い意志を共有し外交交渉を支え後押しする、一致した力強いご支援を心よりお願いする次第です。

高校生の皆さんには、今後とも署名活動への参加、出前講座や自主研究など、これまで取り組んでこられた経験をとおして、自ら出来ることを、それぞれの立場で、積極的に北方領土問題に関わっていただき、返還要求運動を支える大きな力となることを心から期待しております。

発表者の皆さん、7分間という限られた時間の中で北方領土についての自らの熱い思いを表現していただきたいと思います。どうぞ頑張って下さい。

会場の皆様には、弁論発表を行う高校生に温かいご声援を頂きますよう、宜しくお願ひいたします。

結びに、ご来場の皆様、そして、この大会開催に、ご支援、ご協力をいただいております、外務省、北海道高等学校文化連盟弁論専門部、関係団体、参加高等学校の皆様に、心からお礼申し上げます。

2 激励メッセージ



外務大臣 玄 葉 光一郎

「第26回“北方領土を考える”高校生弁論大会」の開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。はじめに、本日の弁論大会に参加されている高校生の皆さん、そして関係者の皆さんに対し、心から敬意を表します。

日頃より外国との友好協力関係を発展させながら、日本の国益を増進するという仕事に取り組んでいます。その中で北方領土問題の解決は重要な課題の一つです。この問題を解決し、平和条約を締結することが、日本とロシアとの間でアジア太平洋地域のパートナーとして相応しい関係を構築する上で不可欠であります。

北方領土問題の解決には国民の皆様の理解と支持が欠かせません。国民一人ひとり、特に、若い世代の皆さんのが、北方領土問題に対する認識を深め、その解決の重要性を広く訴えることが、国民世論を盛り上げ、平和条約締結に向けた政府による対ロシア外交を強く後押しするものだからです。

1月14日、私は根室管内を訪問し、北方四島を視察するとともに、元島民など関係者の方々と意見交換をしました。関係者の皆様の切実な思いをお聞きし、この問題を早期に解決したいとの思いを改めて強くしました。

今後とも、強い意思をもってロシアとの交渉を行ってまいります。領土返還の実現に向け、日本の将来を担う皆さんから力強い声援を頂きますようお願いします。

最後に、本日ご出場の皆さんのご健闘をお祈りして、激励の挨拶とさせていただきます。



北海道知事 高橋 はるみ

第26回「“北方領土を考える”高校生弁論大会」が、多くの高校生の皆さんとの参加のもと、開催されますことを心からお喜び申し上げます。

我が国固有の領土である歯舞群島、色丹島、国後島及び択捉島の北方四島が、第二次世界大戦終了直後に、ソ連、現在のロシアに一方的に占拠され、当時四島に住んでいた島民約17,000人の方々が強制的に島を追わされてから、すでに66年もの長い年月が経過しています。北方領土を返して欲しいという、元島民はもとより、日本国民全体の痛切な願いにもかかわらず、依然として北方領土はロシアに不法に占拠されています。

この間、北方四島を追われた元島民の半数以上の方が、望郷の念を抱きながら他界され、存命の方々におかれても平均年齢が77歳を超えていました。一日も早いこの問題の解決のため、政府による強力な外交交渉の展開を願わずにいられません。

一昨年のメドヴェージエフ大統領の国後島訪問以降、ロシア要人の相次ぐ北方領土訪問やインフラ整備など四島のロシア化が進んでいます。また、今年3月にはロシア大統領選挙が予定され、新しい大統領の下で、北方領土問題の解決に向け、どのような動きが生じるのか予断を許さない状況です。

北方領土問題は、国家の主権と尊厳に関わる外交問題ですが、政府が強力な外交交渉を行うためには、何より皆さんをはじめ国民一人ひとりが、北方領土問題への関心と認識を深め、我が国全体の世論を大きく結集することが必要です。

特に、次の時代を担う若い方たちに、この問題についての正しい知識と関心を持ってもらうことが何よりも重要でありますので、道では教育機関と連携を図り、元島民の方々に小中学校へ出向いていただき、小中学生に北方領土問題についての認識や理解を深めてもらう「北方領土語り部事業」を行っているところです。

こうした中、本日高校生による「北方領土を考える弁論大会」が開催されることには、大変意義深いことであり、発表される皆さんには、この問題に関して若さあふれるフレッシュな視点で、日頃考えている主張を大いに述べていただきたいと思います。

終わりに、弁論大会の開催にあたりご尽力いただいた大会関係者及び教育関係者の皆様に厚く感謝申し上げますとともに、発表される高校生の皆さんのご健闘を心からお祈り申し上げます。



北海道教育委員会教育長 高橋教一

第26回“北方領土を考える”高校生弁論大会に出場される生徒の皆さん、出場おめでとうございます。

本大会は、昭和61年度に始まり、毎年多くの高校生の参加を得ながら歴史を積み重ね、今年で26回目を数えるまでになりました。この間、皆さんの先輩方の発表が、北方領土の早期返還を強く願う元島民の方々をはじめとする地域の皆様、道民、そして国民の方々に、大きな勇気と希望をもたらしてきました。

厳しい事前審査を経て選考され、本大会に参加される皆さんには、日頃から北方領土について考えていることについて、堂々と述べていただくことを期待しております。

さて、北方領土問題については、長年にわたる日本とロシアの首脳による継続的な対話や、「ビザなし交流」による日本人と北方四島在住のロシア人の相互訪問などにより、両国間の相互理解が徐々に深められてきております。

また、若い世代を対象とした取組も定期的に行われてきており、最近では、昨年の8月に、「北方四島交流訪問事業」として23名の中学生・高校生が択捉島を訪問し、地元の中学生や高校生とサッカーの親善試合や意見交換会などにより交流を深めております。

このように、皆さんのような若い方々が、北方領土問題に対して高い関心を持ち、日本とロシアの両国民の相互理解を深めながら返還運動をより一層広げ、領土問題を解決していくこうとすることは大変意義深いことであり、国際平和の維持と安定のためにも大きな意味があると考えております。

昨年の大会においては、北方領土問題を多くの方に伝える情報発信者になって、北方領土の返還意識の高揚や国内世論の拡大を目指そうとする提言や、北方領土をロシアと日本をつなぐ架け橋として、ロシアと日本の両国の人々が住むことのできる友好の土地にしようとするアイディアなど、素晴らしい内容の発表が数多くありました。

本大会で発表される皆さんも、多くの資料を調べたり、様々な方々からお話を伺ったりするなどして、北方領土問題の歴史的背景や領土に関する国際法の意義などについて理解を深めるとともに、北方領土問題がいかに身近な問題であるかに気付いたのではないでしょうか。

結びに、次代を担う皆さんの若さと熱意あふれる提言や発表が多くの人々の共感を得て、北方領土返還運動の輪がさらに広がり、一日も早く北方領土の返還が実現されることを心から願うとともに、皆さんのがこれまでの努力の成果を存分に發揮されることを期待して、激励の言葉といたします。

3 第26回 “北方領土を考える” 高校生弁論大会開催要綱

1 趣 旨

我が国固有の領土である択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島の北方四島が、当時のソ連に不法に占拠されてから、65年が経過しています。

日本政府は、ロシア政府と粘り強い外交交渉を積み重ねてきていますが、未だ北方領土問題の解決には至っていません。

元島民の高齢化が進む中、次代を担う若者たちに北方領土問題や返還要求運動に関心をもってもらい、国民世論のより一層の高揚を図るため、全道の高校生を対象とした弁論大会を開催し返還運動後継者の育成を推進する。

2 発表大会開催日時

平成24年1月21日(土) 12:30より

3 発表大会会場

札幌市男女共同参画センターホール

札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ 3階

☎ 011-728-1222

4 主 催

社団法人 北方領土復帰期成同盟

5 後 援

外務省 内閣府北方対策本部

北海道 北海道教育委員会

札幌市 札幌市教育委員会

北海道高等学校長協会 北海道高等学校文化連盟

独立行政法人北方領土問題対策協会

社団法人千島歯舞諸島居住者連盟

6 応募要領

(1) 応募資格

・道内の高等学校に在学する生徒とします。

但し、過去の本大会において最優秀賞及び優秀賞の受賞者を除きます。

(2) 応募内容

・主題は、「北方領土について考える」とします。

・演題は、自由とします。応募者各自が設定してください。

・弁論内容は、我が国固有の領土である択捉島、国後島、色丹島および歯舞群島の「北方領土問題」、「北方四島の返還実現に向けて」、「私たちに出来る返還運動」など北方領土に関する様々な問題についての高校生としての考えをまとめて、記述してください。

(3) 応募原稿

・応募は一人1編、2,000字程度とし、発表大会において7分以内で発表できる文章としてください。

・原稿はA4判（1ページ400字）としてください。（パソコン等での原稿作成を推奨）

- ・応募の際は、別紙【応募票】に
【1. 氏名（ふりがな） 2. 学年 3. 学校名 4. 住所 5. 郵便番号 6. 電話番号（連絡先） 7. 連絡先教員（氏名・電話番号・メールアドレス）】を記入し添付してください。

<留意点>

- ・応募原稿はコピーをして審査しますので、黒色で明瞭に記入してください。
- ・応募作品は学校を経由して提出してください。

(4) 応募期日

平成23年11月4日(金) ※当日消印有効

(5) 応募先 ☎060-0031 札幌市中央区北1条東1丁目2-5

明治安田生命札幌北一条東ビル7階
社団法人北方領土復帰期成同盟

弁論担当 宛

7 審査

(1) 事前審査

- ・応募作品について、委嘱した事前審査員による書面審査で、大会発表者15名程度を選考します。
- 事前審査の結果は12月中旬頃に本人及び学校長に通知します。

(2) 大会審査

- ・発表者に選ばれた生徒は、発表大会において7分以内で発表をし、委嘱した審査員による審査の上、入賞者を決定します。

<参考>主な審査項目

- ①論旨 ②構成 ③理解度 ④独創性 ⑤表現力 など。

8 表彰

(1) 上位5名を入賞とし、最優秀賞（外務大臣賞）、優秀賞（北海道知事賞）、各1名及び優良賞（北方領土復帰期成同盟会長賞）3名を決定します。

(2) 入賞者に賞状及びトロフィー、大会発表者全員に記念品を贈ります。
なお、応募者全員に記念品を贈ります。

(3) 最優秀者、優秀者には副賞として「総理大臣表敬訪問」を実施します。

(4) 応募回数の多い学校には感謝状を贈呈します。

- ①会長感謝状 応募回数が通算して10回を超える学校：
通算10回（以後5回毎）
- ②外務大臣感謝状 応募回数が通算して20回となった学校

9 その他

- ・発表大会出場者及び同伴教員の参加旅費は主催者が負担します。
- ・上位入賞者の氏名、学年、学校名を大会記録集等に公表しますことをご承知ください。
- ・不明な点等がありましたら、下記までお問い合わせください。

4 第26回 “北方領土を考える” 高校生弁論大会プログラム

開会式 (12:30開会)

1. 主催者あいさつ (社)北方領土復帰期成同盟 会長 堀 達也

2. 感謝状進呈 長年応募いただいた学校に感謝状を贈ります。

(社)北方領土復帰期成同盟会長感謝状

北海道根室西高等学校 様
北海道札幌旭丘高等学校 様

第Ⅰ部 高校生弁論大会

主題～北方領土について考える～

●審査員紹介

●基準弁論

●弁論発表 15校 代表：15名（発表は一人7分以内）

※ 当日棄権により、実績は14校14名

第Ⅱ部 ミニコンサート

●出演 アルモニコ〈二胡を中心としたグループによる演奏〉

◆メンバー

二胡	星	ちひろ
ヴァイオリン	高畑	舞
フルート	奥田	智美
キーボード	小野寺	順子

第Ⅲ部 表彰式

●審査講評

●成績発表

●表彰 彰 最優秀賞 1名／外務大臣賞

優秀賞 1名／北海道知事賞

優良賞 3名／北方領土復帰期成同盟会長賞

○最優秀賞及び優秀賞受賞者には副賞として『総理大臣表敬訪問』を実施します。

閉会 (16:15)

5 弁論発表者（発表順）

○基準弁論 五十嵐有賢 北海道中標津農業高等学校 1年

1 木幡 優大	北海道札幌西高等学校	1年	8 戸田幸一郎	函館ラ・サール高等学校	1年
2 高橋 勘名	北海道札幌旭丘高等学校	2年	9 大建 千浩	武修館高等学校	2年
3 堀内 大地	北海道根室西高等学校	2年	10 清原 優威	北海道中標津農業高等学校	2年
4 高橋 菜子	北海道鹿追高等学校	1年	11 伊戸川大夢	北海高等学校	1年
5 川村 紗香	北海道根室高等学校	1年	12 桜田 有紀	北海道登別明日中等教育学校	5回生
6 尾張 榎	立命館慶祥高等学校	3年	13 中西 涼太	北海学園札幌高等学校	1年
7 高橋 悠理	北海道札幌月寒高等学校	2年	14 福嶋捺菜美	旭川大学高等学校	2年

6 大会審査員（順不同）

佐藤 和子 札幌市女性団体連絡協議会会長

南出 裕 北海道新聞社編集局次長兼報道本部長

守屋 開 北海道高等学校文化連盟弁論専門部長（北海道札幌旭丘高等学校校長）

網谷 耕介 外務省欧州局ロシア課課長補佐

千葉 均 北海道総務部北方領土対策本部長

緒方 公 北海道教育庁教育指導監

7 大会入賞者

最優秀賞	大 建 千 浩 武修館高等学校 2学年	外務大臣賞・楯 北方領土復帰期成同盟会長賞 トロフィ
優秀賞	高 橋 勘 名 北海道札幌旭丘高等学校 2年次	北海道知事賞・楯 北方領土復帰期成同盟会長賞 トロフィ
優良賞	高 橋 菜 子 北海道鹿追高等学校 1学年	北方領土復帰期成同盟会長賞 トロフィ
優良賞	尾 張 棟 立命館慶祥高等学校 3学年	北方領土復帰期成同盟会長賞 トロフィ
優良賞	高 橋 悠 理 北海道札幌月寒高等学校 2学年	北方領土復帰期成同盟会長賞 トロフィ

8 第26回大会応募高等学校（五十音順）

応 募 校	応募生徒数
旭川大学高等学校	2
函館ラ・サール高等学校	1
武修館高等学校	29
北海学園札幌高等学校	1
北海高等学校	1
北海道札幌旭丘高等学校	1
北海道札幌工業高等学校	1
北海道札幌月寒高等学校	3
北海道札幌西高等学校	1
北海道鹿追高等学校	2
北海道中標津農業高等学校	17
北海道根室高等学校	2
北海道根室西高等学校	1
北海道登別明日中等教育学校	1
立命館慶祥高等学校	1
計 15校	64名

9 歴代応募実績校地区別一覧

地区	学校数	応募実績校 () 内は応募回数		
札幌	18	北海 (26)	北星学園女子 (2)	北嶺 (2)
		有朋 (16)	札幌月寒 (7)	札幌星園 (1)
		札幌龍谷学園 (16)	札幌平岸 (2)	札幌北 (1)
		北海学園札幌 (17)	札幌藻岩 (5)	札幌東陵 (1)
		札幌東豊 (5)	札幌聖心女子学院 (3)	札幌藤女子 (1)
		札幌旭丘 (10)	札幌西 (3)	札幌工業 (1)
石狩	4	立命館慶祥 (13)	石狩南 (1)	大麻 (7)
		野幌 (1)		
渡島	3	函館白百合学園 (10)	函館大付属柏稜 (1)	函館ラ・サール (2)
檜山	1	江差 (1)		
後志	3	小樽潮陵 (2)	ニセコ (1)	蘭越 (1)
空知	2	岩見沢緑稜 (1)	幌加内 (1)	
上川	8	旭川大学 (9)	名寄光凌 (1)	旭川北 (1)
		旭川藤女子 (5)	旭川東 (1)	旭川龍谷 (1)
		名寄農業 (3)	下川商業 (2)	
留萌	1	天壳 (1)		
宗谷	1	礼文 (2)		
網走	3	網走 (13)	北見藤女子 (2)	北見商業 (9)
胆振	3	室蘭工業 (2)	厚真 (1)	登別明日中等教育 (5)
日高	2	えりも (1)	様似 (1)	
十勝	8	白樺学園 (11)	帶広柏葉 (1)	鹿追 (3)
		帶広南商業 (4)	帶広農業 (1)	浦幌 (1)
		帶広三条 (4)	帶広工業 (1)	
釧路	12	武修館 (22)	釧路東 (2)	阿寒 (4)
		釧路工業 (11)	釧路北陽 (2)	弟子屈 (2)
		厚岸潮見 (5)	釧路江南 (1)	
		釧路湖陵 (4)	釧路商業 (1)	
		釧路明輝 (4) 釧路北を含む	標茶 (2)	
根室	7	根室 (19)	中標津 (3)	羅臼 (8)
		根室西 (15)	中標津農業 (8)	
		別海 (9)	標津 (2)	

計 76校

10 歴代応募状況

応募校名	応 募		受賞歴			61	62	63	元年	2	3	4	5	6	7	8
	回数	人数	最優秀	優秀	優良	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
			第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回			
1 北海	25	29	3	1	4	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2 武修館	21	542	1	2	7			1		1	3	2	5	1	60	
3 有朋	16	39	3	4	4					7	6	4	3	1		
4 根室	18	44	4	2	6	1			1	1					3	
5 札幌龍谷学園	16	18	1		2	1	1	1							1	2
6 北海学園札幌	16	18	1	1	6								1	1	2	
7 網走	13	157	1		2	1	3	14	23	45	20	14	13	8	5	4
8 白樺学園	11	17			6							2	1	1	2	
9 根室西	14	16			1											
10 立命館慶祥	12	25		1	4											
11 釧路工業	11	87										1		1		
12 別海	9	56		1	2				2	12	8	7				
13 北見商業	9	81			1					20	6	26	17	8	1	
14 羅臼	8	14	1	1	1		2					1	2	1		
15 函館白百合学園	10	16	1	2	1						5					
16 大麻	7	9	1	1	2	1			2	1	1	1	2	1		
17 札幌旭丘	9	9		1												
18 旭川大学	8	10	3		2											
19 厚岸潮見	5	8			1		3		2		1		1			
20 札幌東農	5	6													1	
21 釧路湖陵	4	10	1		2		4	3	2							
22 帯広南商業	4	743		1	3	28	240	223	252							
23 中標津農業	7	78			1											
24 札幌藻岩	5	5			1							1	1		1	
25 阿寒	4	5										1			1	
26 旭川藤女子	5	9	1		1											
27 釧路明輝(釧路北)	4	59					4	13	41							
28 名寄農業	3	8								1	1	1		2	5	
29 札幌聖心女子学院	3	3														
30 札幌月寒	6	13			1									1		
31 釧路東	2	7	1		1		2				5					
32 釧路北陽	2	2		1	1									1	1	
33 礼文	2	2		1		1	1									
34 帯広三条	4	4		2												
35 室蘭工業	2	3			1						1	2				
36 標津	2	2			1				1						1	
37 北星学園女子	2	2			1											
38 北嶺	2	2			1											
39 下川商業	2	4														
40 小樽潮陵	2	2								1	1					
41 北見藤女子	2	2												1		
42 札幌平岸	2	2														
43 弟子屈	2	2					1							1		
44 標茶	2	2					1									
45 江差	1	3								3						
46 函館大付属柏稟	1	3				3										
47 帯広柏葉	1	2												2		
48 登別明日中等教育学校	4	5														
49 野幌	1	1		1						1						
50 札幌星園	1	1			1	1										
51 厚真	1	1			1				1							
52 浦幌	1	1			1							1				
53 帯広工業	1	1				1										
54 札幌藤女子	1	1				1										
55 旭川北	1	1														
56 旭川東	1	1														
57 石狩南	1	1								1						1
58 岩見沢緑陵	1	1														
59 えりも	1	1							1							
60 帯広農業	1	1														
61 釧路江南	1	1										1				
62 釧路商業	1	1									1					
63 札幌北	1	1					1									
64 札幌東陵	1	1												1		
65 様似	1	1														
66 天壳	1	1														
67 名寄光凌	1	1							1							
68 ニセコ	1	1									1					
69 蘭越	1	1												1		
70 札幌西	2	3														
71 中標津	3	3														
72 幌加内	1	1														
73 旭川龍谷	1	1														
74 函館ラサール	1	1														
75 鹿追	2	2														
76 札幌工業																
集 計			応募校延べ数		371	11	13	8	15	11	11	13	14	14	15	12
			参加者延べ数		2,281	44	264	257	332	68	61	50	59	48	33	76

9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	通算 応募 回数	年 度
1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012		開催年
12回	13回	14回	15回	16回	17回	18回	19回	20回	21回	22回	23回	24回	25回	26回		開催回
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	26	北海
19	36	46	44	39	14	45	51	25	10	35	37	32	36	29	22	武修館
3	2	2	2	1	1	1	1	1	2						16	有朋
1	1	1	1	1	1	3	1	5	7	5	3	5	3	2	19	根室
1	1	1	1	1	1	1		2	1	1	1	1			16	札幌龍谷学園
1			1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	17	北海学園札幌
4	3														13	網走
1	4	1	1	1	2	1									11	白樺学園
1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15	根室西
2	1	1	1	1	1	2	1	2	1	8	4		1	1	13	立命館慶祥
2	14	7	14		18		1	1	25	3					11	釧路工業
21	1		1		3			1							9	別海
1	1	1													9	北見商業
	1	2	4				1								8	羅臼
				1	1	1	1	1	1	1	1	3	1		10	函館白百合学園
															7	大麻
			1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	10	札幌旭丘
					1	1	3	1	1	1	1	1	1	2	9	旭川大学
						1									5	厚岸潮見
	1		1	1				2							5	札幌東豊
						1									4	釧路湖陵
															4	帶広南商業
1	1							1	2	4	38	31	17		8	中標津農業
		1								1					5	札幌藻岩
1	2		2	1	2					2	2				4	阿寒
												1			5	旭川藤女子
			1												4	釧路明輝（釧路北）
															3	名寄農業
															3	札幌聖心女子学院
		1								8	1	1	1	3	7	札幌月寒
															2	釧路東
															2	釧路北陽
															2	礼文
								1	1	1	1	1	1		4	帶広三条
															2	室蘭工業
															2	標津
							1	1							2	北星学園女子
		1													2	北嶺
3	1														2	下川商業
															2	小樽潮陵
1					1	1									2	北見藤女子
															2	札幌平岸
								1							2	弟子屈
															2	標茶
															1	江差
															1	函館大付属柏稟
															1	帯広柏葉
										2	1	1	1	1	5	登別明日中等教育学校
															1	野幌
															1	札幌星園
															1	厚真
															1	浦幌
															1	帯広工業
															1	札幌藤女子
							1								1	旭川北
								1							1	旭川東
															1	石狩南
															1	岩見沢緑稲
															1	えりも
	1														1	帯広農業
															1	釧路江南
															1	釧路商業
															1	札幌北
			1												1	札幌東陵
															1	様似
1															1	天壳
															1	名寄光凌
															1	ニセコ
															1	蘭越
															3	札幌西
															3	中標津
															1	幌加内
															1	旭川龍谷
															1	函館ラサール
															3	鹿追
															1	札幌工業
14	16	15	15	14	15	16	15	16	15	16	18	19	15	15		応募校延べ数
60	72	68	73	59	48	64	65	49	54	73	63	95	82	64		参加者延べ数

11 第26回大会までの弁論大会記録

年度	期日	場所	応募数	受 賞 者	アトラクション
昭61 (第1回)	2月14日(土) 14:30	共済ビル 6Fホール	11高校 44名	最優秀賞 渡辺 美都里 (網走高等学校3年) 優秀賞 高木 和彦 (札文高等学校1年) 努力賞 丸田 栄子 (札幌女子高等学校3年) 城石 謙爾 (札幌星園高等学校3年) 安岡 れいこ (帯広南商業高等学校3年)	歌と踊り(60分) <出演> 手風琴 ポップス 泉 玲子 日本舞踊
昭62 (第2回)	2月13日(土) 13:30	札幌市婦人文化センター 2Fホール	13高校 264名	最優秀賞 木暮 美智子 (札幌女子高等学校3年) 優秀賞 嶋 久美子 (羅臼高等学校2年) 努力賞 野上 幸代 (釧路東高等学校2年) 小山 まい子 (釧路湖陵高等学校1年) 吉川 千恵子 (帯広南商業高等学校3年)	内藤やす子 ワンマンショー(60分) 曲目/ 弟よ 想い出ボロボロ お人よし ほか
昭63 (第3回)	2月18日(土) 13:30	札幌 アステイ45 4階ホール	8高校 257名	最優秀賞 勝山 麻衣子 (釧路湖陵高等学校2年) 優秀賞 伊藤 まゆみ (帯広南商業高等学校3年) 努力賞 伊藤 摩里子 (札幌女子高等学校1年) 澤野 直人 (網走高等学校2年) 三浦 淑美 (帯広南商業高等学校3年)	歌謡ショー 歌手/ 北原ミレイ 舟田 淳子 曲目/ 漁火・涙の海峡・石狩挽歌・納沙布崎・ゆれる島影・2001夜物語 ほか
平1 (第4回)	2月17日(土) 13:30	札幌 アステイ45 4階ホール	15高校 332名	最優秀賞 佐野 健一 (根室高等学校1年) 優秀賞 和田 貞穂 (野幌高等学校3年) 努力賞 浜木 珠恵 (釧路湖陵高等学校2年) 高桑 晓子 (標津高等学校2年) 赤塚 章子 (厚真高等学校1年)	民謡と踊り 民謡 佐々木基晴 曲目 江差追分 踊り 道南口説 演目 松前謙了節ほか 藤英会社中 早く帰ってこい よ北方領土・おこさ節 ほか
平2 (第5回)	2月16日(土) 13:30	札幌 アステイ45 4階ホール	11高校 68名	最優秀賞 河村 美穂 (大麻高等学校1年) 優秀賞 上野 公人 (根室高等学校1年) 努力賞 松原 真人 (別海高等学校2年) 桑原 貴信 (室蘭工業高等学校2年) 太田 稔 (網走高等学校2年)	歌謡ショー 歌手/薰ジュン・島 純子 曲目/ 恋のはれるや 女性~WOMAN 夕月・天使の誘惑 ああ北慕情・江差恋歌 ほか
平3 (第6回)	2月15日(土) 13:30	札幌 アステイ45 4階ホール	11高校 61名	最優秀賞 西山 真道 (釧路東高等学校2年) 優秀賞 上出 真由美 (別海高等学校3年) 努力賞 菊地 明子 (厚岸潮見高等学校3年) 井上 卓 (北海高等学校2年) 藤原 瑞奈 (大麻高等学校1年)	歌謡ショー 歌手/狩人 小池果世子 曲目/ あづさ2号・コスモス街道・日本海芭蕉 恋歌・哀しみ紀行北方領土(きたのふるさと)・函館夜景 ほか
平4 (第7回)	2月13日(土) 13:00	札幌 アステイ45 4階ホール	13高校 50名	最優秀賞 川原 佐知子 (釧路緑ヶ岡高等学校1年) 優秀賞 篠原 朱輝子 (大麻高等学校1年) 努力賞 二木 瞳子 (別海高等学校3年) 佐々木 浩志 (有朋高等学校単位制課程1年) 大淵 聖子 (白樺学園高等学校1年)	歌謡ショー 歌手/宮路オサム 小池果世子 曲目/ なみだの操・夫婦鏡・女房・一世一代・雪情話・旅恋慕 恋唄綴 ほか

年度	期日	場所	応募数	受 賞 者	アトラクション
平5 (第8回)	2月19日(土) 13:30	札幌 アステイ45 4階ホール	14高校 59名	最優秀賞 沼倉篤美 (有朋高等学校単位制課程1年次) 優秀賞 久保陽子 (有朋高等学校単位制課程1年次) 努力賞 小野健太郎 (札幌藻岩高等学校1年) 荒内真美 (浦幌高等学校1年) 大塚健司 (白樺学園高等学校3年)	民謡のつどい 出演／佐々木真理子 (札幌東陵高3年) ほか 曲目 江差追分 石狩流れ節 たら釣節 ソーラン節 ほか
平6 (第9回)	2月18日(土) 13:00	札幌 アステイ45 4階ホール	14高校 48名	最優秀賞 竹田茂人 (羅臼高等学校2年) 優秀賞 後藤優美 (釧路緑ヶ岡高等学校1年) 努力賞 畑山陽子 (大麻高等学校2年) 堀川亜美 (釧路緑ヶ岡高等学校1年) 中田裕子 (札幌商業高等学校1年)	民謡のつどい 出演／細川煌翠 ほか 曲目／江差追分 道南口説 千島女工節 ソーラン節
平7 (第10回)	2月10日(土) 13:30	札幌 アステイ45 4階ホール	15高校 33名	最優秀賞 千葉寛子 (有朋高等学校単位制課程2年次) 優秀賞 砂山由起子 (釧路北陽高等学校1年) 努力賞 山田裕明 (札幌商業高等学校1年) 高橋琢磨 (根室高等学校1年) 中川治 (北海高等学校1年)	弾き語り 出演／明日香 曲目／ あなたに逢たいいよ ・北海盆歌・知床旅 情・思い出のグリーングラス・あなたの こと感じている・夢 追い求めて
平8 (第11回)	2月1日(土) 12:30	札幌 アステイ45 4階ホール	12高校 76名	最優秀賞 菅原陽介 (有朋高等学校単位制課程3年次) 優秀賞 市原惣之介 (札幌商業高等学校1年) 努力賞 川村吉満 (羅臼高等学校1年) 砂山由起子 (釧路北陽高等学校2年) 菅野理加 (釧路緑ヶ岡高等学校1年)	弾き語り 出演／明日香 曲目／ 花ぬすびと・夢をあ きらめないで・知床 &虹と雪のバラード ・夢追い求めて・ブ ルーララバイ
平9 (第12回)	1月31日(土) 12:30	札幌 アステイ45 4階ホール	14高校 60名	最優秀賞 高橋琢磨 (根室高等学校3年) 優秀賞 武田裕樹 (有朋高等学校単位制課程1年次) 努力賞 松野美穂 (有朋高等学校単位制課程2年次) 廣中絵美 (札幌龍谷学園高等学校3年) 西谷知祐 (白樺学園高等学校3年)	トーク 出演／佐藤のりゆき 「21世紀こそ自立 人間を目指して」
平10 (第13回)	1月23日(土) 12:30	札幌 アステイ45 4階ホール	16高校 72名	最優秀賞 中山貴三也 (根室高等学校3年) 優秀賞 保科匡 (中標津農業高等学校1年) 努力賞 柳達典 (有朋高等学校単位制課程2年次) 渡部めぐみ (根室西高等学校3年) 山川貴司 (白樺学園高等学校1年)	落語 出演／桂枝光

年度	期日	場所	応募数	受 賞 者	アトラクション
平11 (第14回)	1月29日(土) 12:30	札幌 アステイ45 4階ホール	15高校 68名	最優秀賞 渡辺 裕美 (北海高等学校1年) 優秀賞 林 憲生 (立命館大学慶祥高等学校2年) 努力賞 後藤 瑞朋 (根室高等学校1年) 西 美菜 (釧路緑ヶ岡高等学校1年) 中川 秀規 (白樺学園高等学校2年) 佐々木 裕美 (北見商業高等学校3年)	落語 出演／桂枝光
平12 (第15回)	1月27日(土) 12:30	札幌 アステイ45 4階ホール	15高校 73名	最優秀賞 島 涼子 (北海高等学校1年) 優秀賞 後藤 瑞朋 (根室高等学校2年) 努力賞 篠原 このみ (有朋高等学校単位制課程1年次) 西 美菜 (釧路緑ヶ岡高等学校2年) 吉田 久美子 (白樺学園高等学校3年)	マジック 出演／友たけし
平13 (第16回)	1月26日(土) 12:30	札幌 アステイ45 4階ホール	14高校 59名	最優秀賞 野坂 将吾 (北海高等学校1年) 優秀賞 篠原 このみ (有朋高等学校単位制課程2年次) 努力賞 山崎 善晴 (北嶺高等学校3年) 近藤 麻衣子 (立命館慶祥高等学校1年) 長谷川 志保 (根室高等学校2年)	落語 出演／桂枝光
平14 (第17回)	1月25日(土) 12:30	札幌 アステイ45 4階ホール	15高校 48名	最優秀賞 伊藤 健太 (札幌商業高等学校2年) 優秀賞 吉田 千紗 (函館白百合学園高等学校3年) 努力賞 黒滝 千織 (釧路緑ヶ岡高等学校2年) 高橋 夢子 (旭川藤女子高等学校1年) 横山 友姫 (北海高等学校1年)	三味線と和太鼓 出演／木村善幸
平15 (第18回)	1月24日(土) 12:30	札幌 アステイ45 4階ホール	16高校 64名	最優秀賞 高橋 夢子 (旭川藤女子高等学校2年) 優秀賞 金子 智美 (北海道有朋高等学校3年次) 努力賞 黒滝 千織 (釧路緑ヶ岡高等学校3年) 伊藤 敏恭 (札幌商業高等学校3年) 佐藤 裕子 (北海道根室高等学校3年) 橋本 直久 (旭川大学高等学校2年)	男性コーラス ダンディ フォーコンサート
平16 (第19回)	1月29日(土) 12:30	札幌 アステイ45 4階ホール	15高校 65名	最優秀賞 野村 亘 (根室高等学校2年) 優秀賞 松本 奈津美 (北海高等学校1年) 努力賞 橋本 直久 (旭川大学高等学校3年) 大西 まどか (函館白百合学園高等学校1年) 西山 千尋 (北星学園女子高等学校3年)	男性コーラス ダンディ フォーコンサート

年度	期日	場所	応募数	受 賞 者	アトラクション
平17 (第20回)	1月21日(土) 12:30	札幌 アスティ45 4階ホール	16高校 49名	最優秀賞 渡辺のぞみ (旭川大学高等学校2年) 優秀賞 大西まどか (函館白百合学園高等学校2年) 努力賞 石澤翔吾 (北海学園札幌高等学校1年) 戸田智美 (北海高等学校1年) 能登竜也 (北海道根室高等学校3年)	高校生が制作した北方領土問題啓発番組発表会
平18 (第21回)	1月20日(土) 12:30	札幌市 男女共同参画センター ホール (札幌エル プラザ3 階)	15高校 54名	最優秀賞 十川純光 (旭川大学高等学校2年) 優秀賞 辻堂さくら (帯広三条高等学校1年) 優良賞 鈴木薫 (武修館高等学校2年) 鈴木正太郎 (北海学園札幌高等学校2年) 阿部裕樹 (立命館慶祥高等学校1年)	高校生による和楽器演奏 ①札幌龍谷学園高等学校(雅楽) ②とわの森三愛高等学校(琴)
平19 (第22回)	1月19日(土) 12:30	札幌市教育 文化会館 小ホール	16高校 73名 (特別参加 1名)	最優秀賞 丸山友梨 (函館白百合学園高等学校2年) 優秀賞 梅澤美穂 (札幌旭丘高等学校1年次) 優良賞 加藤徹也 (札幌月寒高等学校2年) 佐藤弘之 (立命館慶祥高等学校1年) 佐藤未来 (北海道根室高等学校3年)	高校生による演奏 札幌月寒高等学校 マンドリン部
平20 (第23回)	1月24日(土) 12:30	札幌市教育 文化会館 小ホール	18高校 63名	最優秀賞 小林百絵 (函館白百合学園高等学校2年) 優秀賞 西山あかり (札幌月寒高等学校2年) 優良賞 ゲツツ羽愛頃杏 (札幌旭丘高等学校1年次) 渡辺ともみ (旭川大学高等学校1年次) 水野雄太 (北海道札幌西高等学校)	女声コーラスミニコンサート 出演／ほほえみコーラス(根室市在住のサークル)
平21 (第24回)	1月23日(土) 12:30	札幌市 男女共同参画センター ホール (札幌エル プラザ3 階)	19高校 120名	最優秀賞 木村優美 (札幌月寒高等学校1年) 優秀賞 牧野裕樹 (根室西高等学校1年) 優良賞 菊地千琴 (帯広三条高等学校3年次) 西畑実咲 (旭川大学高等学校2年) 高橋桃子 (鹿追高等学校1年)	落語 出演／三遊亭金八
平22 (第25回)	1月22日(土) 12:30	札幌市 男女共同参画センター ホール (札幌エル プラザ3 階)	15高校 84名	最優秀賞 松崎あすか (根室西高等学校2年) 優秀賞 中村いのり (登別明日中等教育学校5回生) 優良賞 渡部綾菜 (鹿追高等学校2年) 尾張椋 (立命館慶祥高等学校2年) 室井麻佑 (中標津高等学校1年)	弦楽四重奏ミニコンサート 出演／アンサンブル・シオン
平23 (第26回)	1月21日(土) 12:30	札幌市 男女共同参画センター ホール (札幌エル プラザ3 階)	15高校 64名	最優秀賞 大建千浩 (武修館高等学校2年) 優秀賞 高橋勲名 (札幌旭丘高等学校2年次) 優良賞 高橋菜子 (鹿追高等学校1年) 尾張椋 (立命館慶祥高等学校3年) 高橋悠理 (札幌月寒高等学校2年)	ミニコンサート 出演／アルモニコ

12 第26回大会までの歴代審査員一覧

回数 (大会日)	審査員長	審査					
		外務省		報道機関		北海道	
第1回 (62. 2. 14)	北大教授・スラブ 研究センター長	木村 汎	ロシア課 課長	茂田 宏	NHK札幌 放送局長	村上 達彌	北方領土 対策本部長
第2回 (63. 2. 13)	教育長教育部長	安田 熱	ソビエト連邦課 地域調査官 総務庁北方対策 本部参事官補佐	末澤 昌二 柳本 昌門	北海道新聞 編集局次長	木梨 芳一	北方領土 対策本部長
第3回 (元. 2. 18)	北大教授・スラブ 研究センター教授	木村 汎	首席参事官	山中 誠	北海道新聞 編集局総務	木梨 芳一	北方領土 対策本部長
第4回 (2. 2. 17)	〃	〃	課長補佐	夏井 重雄	北海道新聞 編集委員	島田 昭七	北方領土対策 本部副本部長
第5回 (3. 2. 16)	〃	〃	課長補佐	野口 秀明	北海道新聞 社会部長	〃	〃
第6回 (4. 2. 15)	〃	〃	課長補佐	松崎 潔	北海道新聞 政治部長	田村 泰章	北方領土 対策本部長
第7回 (5. 2. 13)	〃	〃	課長補佐	小池 孝行	北海道新聞 政治部長	山本 研一	〃
第8回 (6. 2. 19)	北大教授・スラブ 研究センター教授	皆川 修吾	課長補佐	野口 秀明	〃	〃	〃
第9回 (7. 2. 18)	北方領土問題 懇話会副座長	沼倉 武志	企画室長	森泉 達士	北海道新聞 政治部次長	鎌形 敏雄	〃
第10回 (8. 2. 10)	〃	〃	N I S 支援室長	坂本 秀之	北海道新聞 政治部長	渡辺 藤男	北方領土対策 本部副本部長
第11回 (9. 2. 1)	〃	〃	欧亜局ロシア課 課長補佐	川端 一郎	北海道新聞 政治部長	村川 亘	北方領土 対策本部長
第12回 (10. 1. 31)	〃	〃	欧亜局N I S 支援室 首席事務官	八重樫永規	〃	〃	〃
第13回 (11. 1. 23)	〃	〃	欧亜局ロシア課 企画官	村松 昭和	北海道新聞 政治部次長	遠藤 雅之	〃
第14回 (12. 1. 29)	北大教授・スラブ 研究センター教授	皆川 修吾	欧亜局ロシア課 企画官	夏井 重雄	北海道新聞 政治部長	池田 清志	〃
第15回 (13. 1. 27)	〃	〃	—	—	〃	新藏 博雅	〃
第16回 (14. 1. 26)	北大教授・スラブ 研究センター助教授	岩下 明裕	欧州局ロシア課 企画官	村松 昭和	〃	島影 均	〃
第17回 (15. 1. 25)	〃	〃	欧州局ロシア課 専門官	野口 秀明	北海道新聞 報道本部長	佐藤 正人	〃
第18回 (16. 1. 24)	北大教授・スラブ 研究センター教授	〃	欧州局 ロシア交流室長	内田 一彦	〃	高橋 雅博	〃
第19回 (17. 1. 29)	〃	〃	〃	〃	〃	山本 哲史	〃
第20回 (18. 1. 21)	〃	〃	欧州局 ロシア課企画官	渡邊 修介	〃	早坂 実	〃
第21回 (19. 1. 20)	〃	〃	〃	〃	〃	清野 佳明	〃
第22回 (20. 1. 19)	〃	荒井 信雄	〃	〃	北海道新聞報道本部 編集委員	鶴井 亨	〃
第23回 (21. 1. 24)	〃	〃	〃	山村 嘉宏	〃	〃	〃
第24回 (22. 1. 23)	〃	〃	〃	〃	北海道新聞編集局 次長兼報道本部長	吉岡 孝修	〃
第25回 (23. 1. 22)	高文連弁論専門部長 札幌旭丘高校長	宮浦 俊明	〃	〃	北海道新聞編集局 次長兼報道本部長	〃	〃
第26回 (24. 1. 21)	高文連弁論専門部長 札幌旭丘高校長	守屋 開	欧州局 ロシア課課長補佐	網谷耕介	北海道新聞編集局 次長兼報道本部長	南出 裕	北方領土 対策本部長

員						
	北海道教育委員会		高等学校		返還運動推進団体	
水野 博雄	教育部長	林 安俊	道高校長会副会長 真栄高校長	飯田 保穂	専務理事	松崎 計一
永井 努	一	一	北海道高等学校 文化連盟会長	本間 英吉	〃	〃
永井 努	教育部長	猪村 昌義	北海道高等学校 文化連盟会長	本間 栄吉	〃	〃
金光 孝生	生涯学習部 指導参事	赤部 仁利	高文連会長 丘珠高校長	丸山 恵敬	副会長	〃
東峰 千紘	〃	高坂 雄幸	〃	〃	〃	〃
中田 州哉	〃	福田 隆三	高文連会長 札幌北高校長	渡辺 誠三	〃	〃
〃	〃	〃	高文連弁論専門部 長 札幌商業高校長	大竹不二男	〃	〃
佐藤 浩志	〃	藤枝 正道	〃	〃	専務理事	中田 州哉
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
稻見 善兵	〃	大澤 征次	〃	〃	副会長	〃
中井 和夫	〃	原山 勉	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
佐野 彰義	〃	遠藤 獻	高文連弁論専門部 事務局長	梁田 剛	〃	〃
上田 正幸	〃	〃	高文連弁論専門部 長 札幌月寒高校長	中川 明弘	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	副会長 札幌女性団体 連絡協議会会长	中易 愛子
〃	〃	西田 豊	〃	丸尾 功一	〃	〃
梅田 奉三	生涯学習部 教育指導監	保坂 潤一	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	数馬田 敏	副会長	金光 孝生
原 高史	〃	小原 信夫	〃	〃	〃	水間 松美
〃	〃	諫江 康夫	〃	原田 守	札幌女性団体 連絡協議会会长 北方同盟副会長	藤田 本子
多羽田邦博	〃	太田 真	〃	〃	北海道女性団体 連絡協議会会长	中田 和子
水口 博史	北海道教育庁 教育指導監	深澤 宗明	〃	太田 真	札幌女性団体 連絡協議会会长	佐藤 和子
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
越前 雅裕	〃	村田 政孝	〃	玉利 和弘	〃	〃
〃	〃	〃	北大スラブ研究 センター教授	岩下 明裕	〃	〃
千葉 均	北海道教育庁 教育指導監	緒方 公	—	—	札幌女性団体 連絡協議会会长	佐藤 和子

13 弁論記録

1. 審査講評
2. 入賞者弁論文集

1 審査講評

審査員長 守 屋 開



第26回“北方領土を考える”高校生弁論大会弁士の皆さん、ご苦労様でした。

また、ご指導の顧問の先生方、本当に感謝申し上げます。

今、審査してまいりましたが、多くの審査委員の方々から、まずは弁士の皆さんの発表について、色々なことを研究されてここに望んでいるということに、お褒めの言葉がありました。

この大会は北方領土について考えるということで、テーマはハッキリしております。それに対して生徒がどれだけ掘り下げて、自分のものにしたかということが問われるのではないか、そして、初めて北方領土やいろいろな事柄について聴衆の皆さん前でどういうふうに訴えかけるか、自分の考えをどのように伝えることが出来るかということが一番大切なことではないかと思っています。

そういう中で、特に高校生ですので、新鮮な色々な自分の意見などを大いに發揮して出して頂きたかったなど、欲を言えば高校生らしさをもっともっと出して頂ければ良かったかなと感じています。

ここで、審査員の方々のお話の中で出てきたご意見をいくつか紹介いたしますと、先ほども言いましたように、深く研究され掘り下げているというということで、まず初めに、「原稿を見ないで話している、それは聴衆に訴える力が当然自分のものとしてあるのではないか、自分のものにしているのではないか、そういう弁論の方が表現力も豊になって、論旨も輝いていたのではないか」というお話しでした。次に、「弁論らしいと言いますか、いわゆる昔ながらの弁論らしい語り口がいいのか、自然な話し方がいいのかについては、いろいろご意見はあるところではありますが、輝いて表現できればいいのではないか」というご意見がありました。そのほかに、「原稿を書くまでにかなり研究、勉強しているので、出来ればもう少し構成を直すというか、もう少し表現力を發揮するために構成を手直しした方がいいものも中には見られた」という辛口の見方も中にはありました。それから「当然、体験とか地に足をついたところから発しているものが多かったので、そのあたりには説得力があるのではないか」というお話しも出ておりました。

中でもテーマが北方領土ですので、「一人でも多くの方に共感を持って頂くことが大切なのではないか」という意見など、他にもいろいろな意見が出ておりました。

生徒の皆さん、これからも北方領土のことを、家族、仲間、後輩にいろいろ伝えていって広げて欲しい、そしていろいろなところで弁士の皆さんも、これからも北方領土のことを考え、行動して頂ければと思います。

今日は本当にご苦労さまでした。

2 大会入賞者弁論内容

演題 「北方領土について考える」

最優秀賞

外務大臣賞

武修館高等学校 2年
大建千浩



「共に歩む返還への道」

北方領土問題には六十六年という長く暗い歴史があります。私がその問題に取り組ませていただき1年が経ちました。領土返還を求める為の署名活動を行ったり、市民の集いなどで自分の意見を発表し、島民の方々、地域の方々と共に、問題解決への道を歩んでいます。そして私は八月の五日から八日まで、北方領土ビザなし交流に参加し、四島の中で最も大きくて遠い択捉島を訪問したのです。私の見た択捉島は自然豊かな美しい島でした。道路は砂利と土で、野良犬が多く、建物の一つ一つは古く見えましたが、それはロシアの人々がここに長く暮らしてきた証のようにも思えます。択捉島に向かう船には十人の高校生が乗っていました。私達は夜七時頃になると船の中にあるサロンに集まり北方領土について話しました。それまで何の意見も持っていた私達高校生が、島を直に見て、問題を肌で感じたことから一人一人が己の考えを持ってそれを伝え合うまでになったのです。

その中で私は二つのことを考えました。一つ目は「ビザなし交流の目的と意義」についてです。例えば島が日本に返還された時、今住んでいるロシアの人々をすぐ追い出してしまうわけにはいきません。ですが二つの国籍が一つの島で暮らすということはとても難しいことです。そこでビザなし交流の果たす役目は日本とロシアが共存する為の土台を作ることだと思います。私が司会を務めた日本とロシアの高校生同士で行った意見交換会では、勉強、友人関係、部活、将来のことについてなどを語り合ううちに、お互いを心から受け入れていきました。このような交流を続けていくことが、理解を深めることに繋がるのです。

二つ目は「北方領土問題は誰の問題であるのか」についてです。ある一人の高校生がこんな意見を述べました。「北方領土問題は地方議会や島民同士の話し合いではダメなので

すか？」国と国の間で解決するのが難しくても、人と人との間なら前進することができるのではないか、という意見でした。けれど領土は島民の方や地方だけの問題ではないと思います。国民一人一人が問題の当事者なのです。ロシアの人々はビザなし交流どのように考えているのでしょうか。ホームビジットで伺ったロシア人の家庭は、私達日本人を笑顔で歓迎してくれました。沢山の料理が並べられ、どれも心を込めて作られた美味しいものでした。彼らは一体どんな思いで日本人を持て成してくれているのか、「元島民がお墓参りを兼ねて交流に来た」そんな風に思っているのかもしれません。あるいは、「日本の中学生、高校生の歴史教育のために訪れていると思っている人もいるのかもしれません。いずれにせよ、私達が望むのはただ一つ、「四島返還」です。島国である日本だからこそ、全ての島を全ての国民で守っていかなくてはいけません。私達は、そうした意識をさらに高くしていくことが求められているのです。

日本人の墓地を訪れた時、私の胸は強い痛みに襲われました。墓地は小高い場所にあり、踝の上まで草が伸びています。その草に埋もれてしまいそうな、小さな墓石でした。私達は二本ずつ配られたお線香を草や土の上に置く他ありませんでした。私は墓に手を合わせながら、言い用の無い悔しさを感じていました。ここは日本で、そこに日本人の墓がある。それなのに何故、日本人が自由に墓参りへ来られないのだろう、と。先祖に花を供え、手を合わせることが、どうしてこのように困難な中にあるのでしょうか。

これからの中返還運動は、島民の方だけではなく、国民の一人一人が取り組んでいくべきものだと思います。ロシアの人々に対する理解や主張に加え、日本国民に対する内側への働きかけも必要です。署名活動、地域集会、ビザなし交流の継続と発展を通して日本が一つになる時です。

どんなに強くあの島での共存を望んでも、それは簡単なことではありません。古里を返して欲しいと願うことで誰かが古里を失ってしまうなんて、とても哀しいことです。だから私は、決して諦めたくないのです。北方領土返還と共に明日を。日本人もロシア人も肌や髪の色、言葉が違うだけで、思いの通じる同じ人間なのです。助け合い、共に生きることができるはずです。

北方領土問題という長い夜が明け、解決の朝が来ることを信じています。その為に、私は一人の日本人として領土問題終結への道を島民の方々と共に、歩んでいくのです。

優秀賞

北海道知事賞

北海道札幌旭丘高等学校 2年次

高橋 勘名



「これからを考えよう」

大きな雪像、きれいな氷の彫刻、小さい子が歓声を上げながら楽しむ滑り台。「さっぽろ雪まつり」は札幌に住んでいる人はもちろん、日本全国、海外から多くの人が訪れます。その雪まつりの会場に「北方領土返還署名コーナー」があります。毎年、そこで返還運動の署名活動が行われているのです。昭和40年から現在まで、集まった署名は8千万にも上るそうです。しかし、北方領土問題は日本人が8千万の署名を集めても解決されません。どうしたら解決できるのでしょうか。

今から20年前のこと、サハリンに住む三歳の男の子、コースチャー君が火傷をしました。その火傷は全身の九十パーセントにもわたる大きなもので、ソ連では治療できませんでした。外務省、海上保安庁の方々、医師や看護師。あらゆる人の協力により、コースチャー君は日本で治療され、四ヶ月後に元気に帰って行きました。滅多にあることではないのでテレビや新聞で大きく伝えられ、多額の募金も集めましたそうです。

その翌年、「ビザなし訪問」の実施が決まりました。日本とその当時のソ連の距離が確実に近くなったのです。

去年の夏、私も機会に恵まれ、ビザなし訪問に参加し、抝捉島を訪問しました。生えていた植物は北海道と同じかもしれませんのが風景はどこを見てもロシアの町並みでした。外壁の色使いなど、文化の違いがあることがわかります。日本人がかつて作ったというような建物は二軒しかありません。五十年以上が経過し、日本人が住んでいたなんて言われなければわからないと思いました。そして、元島民の方々と同じように現島民の方々は島を愛しているということが強く感じられました。

私はビザなし交流はとても大きな意味があるのだと思います。日本人と現在の島民の方々がお互いの不信感を解消し、理解し合うことにつながってきたと思います。北方領土返還運動というと現在住んでいるロシア人を追い出すことと考えてしまいがちです。しかし、すでに1回目の訪問から元島民の方は「返還されても現島民のみなさんを追い出すことはしない。希望するなら島の開発を一緒にしよう」と発言したのだそうです。望んでい

るのは自分たちだけでの慣れ親しんでいた島での生活ではなく、ロシア人との共生でした。ところがその、現実的で平和的な願いは20年たった現在もかなえられていません。

返還運動については多くの人に伝えられていますが、元島民の方がロシア人の方と共生を考えていることはあまり伝えられていないのではないかと感じます。私はこのことをビザなし交流の船の中で元島民の方からお話を聞き、はじめて知りました。

何世代も住んでいるロシア人を追い出すことはソ連がしたことと同じではないか。そんな風に考え、返還運動に参加しないほうがよいと考えてしまう人も多いのではないかでしょうか。私もその一人でした。もし返還されたなら、何がどう変わるのか、あるいは変わらないのかがよくわからないのです。政府はもっとそのことを明確にすべきだと思います。返還後はどうなるのかはっきり分からぬから、返還もままならなくなってしまったのではないかでしょうか。何十年も過去について話し合ってきたのに解決しませんでした。それならば未来についてとことん話し合ってみてはどうでしょう。

めまぐるしく動いている世界の中で日本とロシアはどのような役割を担い、どのような関係をつくるのが望ましいのでしょうか。平和な世界に向けてもっと新しい視点でこの問題を考えることはできないのでしょうか。今までに集められた署名は8千万人分です。少なくとも8千万人の人が解決を望んできたのだから北方領土問題、解決の努力を怠ってはいけないのです。そして、私たちがこの問題を引き継いでいかなければいけないです。新しい発想でこの問題を見直す時期が来ていると私は強く感じています。

優 良 賞

北方領土復帰期成同盟会長賞

北海道鹿追高等学校 2年

高 橋 菜 子



ГУРИЛЫ — ЗЕМЛЯ РОССИЙСКАЯ

～ここは私たちの土地だ～」

この夏、択捉島を訪れた先輩は、その看板に衝撃を受けました。先輩が択捉島に着いて初めて見た看板は「ようこそ択捉島へ」というような日本人を迎えるような看板でした。交流という名の訪問。しかし一步奥に進むとそこには「私たちの土地だ」という島民の強烈な意識。これが彼らの率直な気持ちなのかもしれません。

おととし国後島への訪問団に参加した私の姉は、向こうでとても親切にしてもらったそうです。「終戦から60年以上経ち、国後の人にとって、あの土地はもう故郷になり始めている。そこに住む人のことを考えると、いきなり土地を返せというのは難しいと思う。故郷を奪われた旧島民の方々と同じ人を生み出すことになる。」と彼女は話してくれました。

私は今年の10月にカナダへ2週間の短期留学に行きました。そこで私が感じてきたのは、ファミリーの思いやりや優しさでした。不安と緊張でいっぱいだった私。そんな私にホストファミリーのママは優しさと明るい笑顔で迎え入れてくれました。自分の伝えたいことが伝わらず、ママの話していることが理解できない私。そんな私に対してママは一所懸命に私がしたいことや話していることを理解しようしてくれました。そして私のことを本当の娘のように接してくれました。そのおかげで緊張がほぐれ、帰る頃には本当の家族のようになりました。

個人として迎え入れ親しく接しようしてくれる気持ちはどこも一緒です。カナダへ行った私も、国後島を訪れた姉も、そう感じてきました。今年の3月に起きた東日本大震災では北方領土の島民が「被災地へ支援したい」と申し出てくれました。もちろん、1994年に起きた地震の際の、日本の支援に対するお返しの気持ちもあったと思います。でも、本当にそれだけでしょうか？私は違うと思います。過酷な状況にある隣人を助けたい、という気持ち。そしてその背後には、地道に行ってきたビザなし交流の積み重ねによる、人ととの深い交流があるのではないでしょうか。ですが、これが国同士になると簡単にはいきません。やはり国という大きな単位になってしまふと、解決は無理なのでしょうか。

そもそも人類の歴史の中で国と国との争いは絶えたことはありません。ギリシャとローマ。イギリスとフランス。ドイツとロシア。そして、日本とロシア。日露戦争と第2次世界大戦、二つの戦争を経て、両国はいまだ分かり合えずにいます。ロシア側からすれば、北方領土は大きな犠牲を払い、戦争に勝って手に入れた土地です。だから簡単には手放せない。もちろん、日本も譲れない。

この問題は、もはや国と国という枠の中で考えているだけでは解決は遠いのではないでしょうか。終戦から66年、問題の解決はおろか四島への行き来も自由にできないのが現状です。自分たちが、もっと行動しなければならないのではないかでしょうか。インターネットがきっかけで独裁政権が倒れる時代です。国だけでなく、私たち一人一人が動けば、国のしがらみだつてきっと越えられるはずです。でもそのためには、文化、特に言語の壁を乗り越えなければなりません。

そこで私は、学校の授業に「ロシア学」を取り入れることを提案します。私が住んでいる鹿追町には「カナダ学」という、小中高一貫で英語を学ぶ一方で、カナダの文化を学び、交流をするという取り組みがあります。カナダ短期留学もその1つです。このカナダ学のように、学校の授業に「ロシア学」を取り入れるのです。そして、北方領土の学生には「日本学」を学んでもらうのです。きっと、互いに対する興味や関心が深まり、今まで以上に交流が進むのではないかでしょうか。そうやって、今まで以上に、お互いの理解を深め合うことが大切だと思うのです。

「ここは私たちの土地」。そう、ロシア人と日本人。両国の私たちの土地。いつかそう言える日が来ることを願い、私は、積極的な情報発信をしていくつもりです。

優 良 賞

北方領土復帰期成同盟会長賞

立命館慶祥高等学校 3年

尾 張 棟



「ベクトルの先にみえるもの」

「北方領土の署名活動に参加してみないか？」

高校1年生の冬。部活の先輩が私にこう尋ねてきました。北方領土問題。当時の私にとってそれは社会科の教科書に出てきたというくらいのものでしかありません。ロシアが占拠していることは知っていたものの、興味もなければ関心もない。特に予定もありませんでしたが、「めんどくさい」という理由で先輩の誘いを断ってしまいました。

しかしその考えは高校2年生の夏に変わります。ビザなし交流で国後島を訪れる機会をいただいたのです。現地で見た日本人墓地。「マタアイマショー」というロシア人との約束。新聞各社を前にしての記者会見。この問題を解決しなければならないという使命が私の胸にわき起ったのです。

国後島訪問後、私は変わりました。まずは北方領土問題を一生懸命学習し、昨年冬にはこの弁論大会にも参加しました。問題解決への炎を燃やし続けるため、私はこの場で北方領土への想いを語ったのです。それは私にとってこの問題に全力で取り組むことの誓いの言葉でした。

「北方領土返還の署名をお願いします」

弁論大会での誓いを果たすため、その後私は一年前に先輩の誘いを断った北方領土返還署名活動に参加しました。会場は、私の住む札幌で行われる冬の祭典、さっぽろ雪まつり大通り会場。年に一度の大イベントに観光客が絶え間なく私たちの前を通り過ぎます。初めての活動に緊張しながらも、何度も何度も声を張り上げ署名のお願いをしていると、小さな男の子がお父さんに連れられて私のところにやってきました。

「ねえねえ、この島がどうなったの？」

男の子の指す先にあるのは、ポケットティッシュの袋に描かれた4つのしま四島。

「えーとね、ロシアがね、日本との約束を破って勝手に取っちゃったんだよ」

男の子にもわかるようゆっくりと慎重に言葉を選びます。

「へえーそうなんだー」

男の子は、にっこりと微笑みかけます。しかし、私にはひとつの疑問が残ったのです。この主張を伝えるだけで良かったのだろうか。何かが足りなかつたのではないかと思いました。

私たちは北方領土問題を知っています。しかしそれは学校での知識や、パンフレットで知っているという程度です。ロシアの占拠が続いているとは知りながらも、結局問題の解決は政府に任せっきり。それでは問題は解決へと向かわないと思うのです。私たちに必要なこと。それは「知ること」から「動くこと」へとベクトルを進める事ではないでしょうか。署名活動のとき、私は歴史だけを伝えて終わってしまいました。しかし、その先に向かって行かなくては、いつまでも平行線が続いてしまいます。また、どんなに政府が頑張っても、それを国民が後押ししなければベクトルは先には進みません。だからこそ、政府と国民が協力し、共に行動することが大切なのです。

のために、私たちの声を届ける機会を増やすことが必要だと思います。私は国後島訪問後、北方領土フォローアップ事業に参加しました。それは領土問題担当の方とビザなし交流を体験した高校生が集まり、北方領土問題について意見を交わすというものです。このような機会をさらに増やすことが新たな行動、そして問題解決へつながるのです。例えば、北方領土問題になじみのない地域で私を語らせるというのはどうでしょうか。私は4月から大学生となり、京都に移り住みます。北方領土問題を考えてきた私たちが日本各地で語ることで、国民全体を巻き込んだ大きな力が生まれると思うのです。

依然として北方領土では日本人の上陸は制限されているのが現状です。それでも、高校3年生になった私が、今日この場で北方領土への熱い想いを語る理由。それは、2年前に訪れたあの国後島に「ただいま」という言葉をかけるためです。そのためにも、一緒に行動していきましょう。ベクトルの先にみえるものは返還の2文字なのだから。

優 良 賞

北方領土復帰期成同盟会長賞

北海道札幌月寒高等学校 2年

高 橋 悠 理



私が七歳の時、家族と札幌雪祭りを見に行った時のことです。帰り際に、「北方領土返還のため、署名にご協力を」と大きな声が聞こえ、私は署名に参加しました。参加したと言っても、当時北方領土について何も知らず、名前を書けば喜んでもらえると思い署名しただけ。事実その時は良いことをしたという気分でしたが、その後関わることなく十年が過ぎ去りました。

そして私が高校に入学し、「話し方研究部」に入部して間もなくのことです。部の先輩がビザ無し交流で北方領土に行けることになりました。初めは貴重な体験ができる先輩を羨ましいと思いましたが、それは疑問と恐怖へと変わっていきました。

先輩が行くと決まったこともあり、私は好奇心から北方領土について調べました。そしてわかったのは、間違いなく北方領土は日本固有の領土であるのに、当時のソ連が敗戦の混乱に乗じて、日本との不可侵条約を破り北方領土を占領したこと。そして今ではロシア人がそこに住み、そこへ入ることはロシアに入国すると見なしていることです。これはあまりにも一方的でひどすぎます。アメリカもその様子を見て、そこは日本の領土である、といった文書を送りましたが、聞く耳を持たなかったのです。

調べるほどに、ロシアは身勝手で怖い国だと思い、そんな国の人々が住む場所へビザ無し交流に行く先輩が心配になりました。ですが私は先輩の無事を祈りながら見送ることにしました。

後日先輩が帰ってきて話を聞くと、住民はとても親切で、そこで出会ったある少女は日本人と交流するから、と頑張って日本語を勉強して会話をしようしてくれたというのです。

私は考えが変わりました。確かに国同士では領土問題で対立しています。しかし個人同士の関係に国は関係ありません。なのに私は、ロシアは身勝手で怖い国だから国民も同じだと決めつけていたのです。

そして私は気づきました。先輩の話から、対日感情は悪くありません。この問題には住民の考えも強く反影されます。現段階では住民の多くが返還に反対していますが、これが

らも強く呼びかけていけばいつか私達の思いも伝じるはずです。そして今の島の生活がより良くなることを前提に返還に応じてくれる人が増えていくでしょう。そうなるためにも、日本人一人一人が団結し、屈することなくこれからも要求し続けていかなければいけません。

私は昨年の冬、北方領を返還を求める署名活動に参加しました。札幌雪祭りを見ようと全国から来た大勢の人に行きかう中、私は氷で転ばないようにしながら、「署名お願いします！」と汗だくになって呼びかけ続けました。頑張ってね、と応援してくれる人がいる反面、チラッと見て通り過ぎる人、うっとおしそうに顔をしかめる人などもいました。同じ日本人でありながら興味がない人がいることに、私は悔しさを感じたものです。

それから一ヶ月後の三月十一日、みぞうの大震災が起こりました。震災によって人々が負った傷はとても深く、これからも痛みは続いていくでしょう。ですがそんな中、私は一筋の希望の光を見ました。普段日本人は自己中になったとか、お金が全ての世の中になつたとか、互いに愚痴をこぼし合ってきましたが、震災後皆は心を一つにして団結するようになったのです。領土問題も心を一つにして主張し要求することができるはずなのです。

私はただの高校生…何もできません。できたとしても非力な私にできることは限られています。しかし私は、ささいなことであっても、日本人の一人としてできることをやっていきたい、そう思うのです。

「皆さん！ 北方領土は日本固有の領土です。今こそ心を一つにして署名にご協力をお願いします！」 それでは来月の雪祭りの時、またお会いしましょう。

14 第26回 高校生弁論大会 スナップ

弁論発表者14名及び基準弁論1名

最優秀賞
武修館高等学校
大建 千浩さん



優秀賞
札幌旭丘高等学校
高橋 勘名さん



優良賞
鹿追高等学校
高橋 菜子さん



優良賞
立命館慶祥高等学校
尾張 榛さん



優良賞
札幌月寒高等学校
高橋 悠理さん



札幌西高等学校
木幡 優大さん



根室西高等学校
堀内 大地さん



根室高等学校
川村 綾香さん



函館ラ・サール高等学校
戸田 幸一郎さん



中標津農業高等学校
清原 優成さん



北海高等学校
伊戸川 大夢さん



登別明日中等教育学校
堀田 有紀さん



北海学園札幌高等学校
中西 涼太さん



旭川大学高等学校
福嶋 摘菜美さん



基準弁論
中標津農業高等学校
五十嵐 有賢さん

開会

主催者挨拶



(社)北方領土復帰期成同盟
会長 堀 達也



司会
中村 泉



根室西高等学校へ
北方同盟感謝状贈呈



札幌旭丘高等学校へ
北方同盟会長感謝状贈呈

審査員会



守屋審査員長



審査員室における協議



審査員室における協議



審査員室における協議

審査講評・表彰



守屋審査員長による審査講評



守屋審査員長による審査講評



最優秀賞



優秀賞



優良賞



優良賞



優良賞



大会発表者と審査員による記念写真

第2部 ミニコンサート



アルモニコによる演奏



アルモニコによる演奏

会場



会場 札幌エルプラザ



受付 (3Fホール)



受付 (3Fホール)



観客席



署名コーナー (3Fホール)

15 平成23年度総理表敬訪問

.....(平成24年3月13日)

1 訪問目的

“北方領土を考える”高校生弁論大会の最優秀賞及び優秀賞受賞者による内閣総理大臣表敬訪問を行い、内閣総理大臣から激励をいただき今後の大きな励みとする。また、当弁論大会実施への啓発・推進に寄与する。

2 訪問先

☆野田内閣総理大臣

平成24年3月13日(火) 17:45~17:55 総理官邸

☆玄葉外務大臣

☆川端内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）

☆横路衆議院議長

☆前原衆議院議員

☆国会議事堂見学

3 訪問者

○ 大建千浩（武修館高等学校2年）

○ 高橋勸名（北海道札幌旭丘高等学校2年次）

《引率者》長崎由衣（武修館高等学校教諭）

成田英行（北海道札幌旭丘高等学校教諭）

《同行者》石部彰（(社)北方領土復帰期成同盟専門員）

4 訪問概要

◇ 国会開会中でしたが、外務省をはじめ関係省庁の皆様のご尽力により、野田内閣総理大臣表敬訪問が実現いたしました。

野田総理大臣からは、「若い世代が北方領土問題に高い関心を持って頂くのは本当に心強いことであり、引き続きこの問題解決に向けて取り組んで頂きたい。私もお二人の趣旨を胸に刻んで、北方領土問題の解決に向けての取組を更に強めていきたい」という激励の言葉とともに、「素志貫徹」と記された色紙を頂きました。

◇ 玄葉外務大臣からも、二人の弁論内容への感想や今後の活動に対する激励の言葉を頂くとともに、二人が昨年ビザなし交流で訪れた択捉島の思い出などについて懇談いたしました。

◇ また、川端北方担当大臣を訪問した際には、大臣からの激励の言葉とともに「北方領土返還に向けた思い」をメッセージフリップに記し、大臣と一緒に発信することができました。

◇ なお、当日は横路衆議院議長、前原衆議院議員への訪問も実施し激励の言葉を頂くとともに、横路議長のご配慮により、議長公邸及び国会議事堂を見学させて頂きました。



野田総理大臣表敬訪問



総理官邸特別会議室にて
(左から長崎教諭、大建千浩さん、
野田総理大臣、高橋勧名さん、
成田教諭)

玄葉外務大臣表敬訪問



外務大臣接見室にて
(玄葉外務大臣、大建千浩さん、高橋勧名さん)



外務大臣接見室にて
(左から長崎教諭、大建千浩さん、玄葉外務大臣、高橋勧名さん、成田教諭)

川端内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策)表敬訪問



北方担当大臣室にて
(高橋勧名さん、川端大臣、大建千浩さん)



北方担当大臣室にて
(川端大臣、大建千浩さん)



北方担当大臣室にて
(高橋勧名さん、川端大臣)

横路衆議院議長表敬訪問



衆議院議長公邸にて
(左から、長崎教諭、大建千浩さん、横路衆議院議長、高橋勸名さん、成田教諭)



衆議院議長公邸にて
(左から、大建千浩さん、横路衆議院議長、高橋勸名さん)



国會議事堂内
衆議院議長室にて

前原衆議院議員表敬訪問



前原議員事務所にて
(左から、前原議員、大建千浩さん、高橋勸名さん)



前原議員事務所にて
(左から、大建千浩さん、前原議員、高橋勸名さん)

“北方領土を考える” 高校生弁論大会最優秀・優秀賞受賞者
 「総理大臣表敬訪問」年度別実績表

	表敬訪問日	内閣総理大臣		外務大臣		備考
第1回	62.3.2	中曾根総理大臣	総理官邸	倉成大臣	大臣応接室	
第2回	63.3.22	竹下総理大臣	総理官邸	宇野大臣	大臣応接室	
第3回	元.3.15	竹下総理大臣	総理官邸	宇野大臣	大臣応接室	
第4回	2.3.22	海部総理大臣	総理官邸	中山大臣	大臣応接室	
第5回	3.3.22	海部総理大臣	総理官邸	鈴木政務次官	政務次官室	大臣訪米中のため
第6回	4.3.17	加藤官房長官	大臣室	兵藤欧亜局長	欧亜局長室	参議院集中審議のため
第7回	5.3.23	宮澤総理大臣	大臣室	柿澤政務次官	政務次官室	大臣病気静養のため
第8回	6.3.30	細川総理大臣	大臣室	東政務次官	政務次官室	大臣政務繁忙のため
第9回	7.3.29	村山総理大臣	大臣室	柳沢政務次官	政務次官室	大臣政務繁忙のため
第10回	8.3.25	橋本総理大臣	総理官邸	浦部欧亜局長	欧亜局長室	
第11回	9.4.1	橋本総理大臣	総理官邸	浦部欧亜局長	欧亜局長室	外国要人来訪のため
第12回	10.4.1	村岡官房長官	総理官邸	柳井事務次官	事務次官室	
第13回	11.4.2	小渕総理大臣	総理官邸	武見政務次官	政務次官室	渡欧前日のため
第14回	12.3.31	小渕総理大臣	総理官邸	山本政務次官	政務次官室	
第15回	13.3.14	森総理大臣	総理官邸	衛藤副大臣	副大臣室	
第16回	14.3.13	小泉総理大臣	総理官邸	植竹副大臣	副大臣室	
第17回	15.3.11	小泉総理大臣	総理官邸	土屋政務官	外務政務官室	
第18回	16.3.15-16	小泉総理大臣	総理官邸	逢沢副大臣	副大臣室	
第19回	17.3.8	小泉総理大臣	総理官邸	町村外務大臣	大臣応接室	
第20回	18.3.9	小泉総理大臣	総理官邸	麻生外務大臣	大臣応接室	
第21回	19.3.12	安倍総理大臣	総理官邸	麻生外務大臣	参院外務省控室	外務大臣3/13
第22回	20.3.3	福田総理大臣	総理官邸	小野寺外務副大臣	外務副大臣室	
第23回	21.3.11	麻生総理大臣	総理官邸	中曾根外務大臣	大臣応接室	
第24回	22.3.23	鳩山総理大臣	総理官邸	前原内閣府特命担当大臣	副大臣応接室	
第25回	23.3.28		総理官邸	伴野外務副大臣	副大臣応接室	東日本大震災対応のため
第26回	24.3.13	野田総理大臣	総理官邸	玄葉外務大臣	大臣接見室	
				川端内閣府特命担当大臣	大臣室	

16 平成24年度 第27回 “北方領土を考える” 高校生弁論大会【募集概要】

1 開催日時

平成25年1月19日(土) 12:30より

2 会場

札幌市男女共同参画センター・ホール（予定）

札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ3階

3 主催

社団法人 北方領土復帰期成同盟

4 募集要領

(1)応募資格

道内の高等学校に在学する生徒とします。

但し、過去の本大会において最優秀賞及び優秀賞の受賞者を除く。

(2)応募内容

・主題は、「北方領土について考える」とします。

・演題は、自由とします。応募者各自が設定してください。

・内容は、我が国固有の領土である択捉島、国後島、色丹島および歯舞群島の北方領土問題について高校生としての考えをまとめて記述してください。

(3)応募原稿

・応募は一人1編、400字詰縦書き原稿用紙5枚(2,000字)以内を標準とし、発表大会において7分以内で発表できる文章としてください。

(4)応募期限

平成24年11月5日(月) ※当日消印有効

(5)応募先 ☎060-0031 札幌市中央区北1条東1丁目2-5

明治安田生命札幌北一条東ビル7階

社団法人 北方領土復帰期成同盟

5 表彰

(1)上位5名を入賞とし、最優秀賞(外務大臣賞)、優秀賞(北海道知事賞)各1名及び優良賞(北方領土復帰期成同盟会長賞)3名を決定します。

(2)入賞者に賞状及びトロフィー、大会発表者全員に記念品を贈ります。

なお、応募者全員にも記念品を贈ります。

(3)最優秀賞及び優秀賞受賞者には「内閣総理大臣表敬訪問」を実施します。

◎たくさんの高校生の応募をお待ちしています。

◎応募の詳細は、7月頃に各高等学校宛にお届けする予定です。

◎お問い合わせ等の連絡先は次のとおりです。

〔 ☎060-0031 札幌市中央区北1条東1丁目2-5
明治安田生命札幌北一条東ビル7階
TEL 011-205-6500
FAX 011-205-6501
(メールアドレス) hoppou-d@isis.ocn.ne.jp 〕

2011(平成23年度)第26回“北方領土を考える”高校生弁論大会記録集

発行 平成24年3月

編集 社団法人 北方領土復帰期成同盟

〒060-0031 札幌市中央区北1条東1丁目2番5

明治安田生命札幌北一条東ビル7階

T E L (011) 205—6500

F A X (011) 205—6501

※ e-mail hoppou-d@isis.ocn.ne.jp

※ U R L <http://www.hoppou-d.or.jp>



北方領土返還運動のシンボル花
『千島桜』



“いつか”を“今”に。日本の国土、北方領土
(平成23年度 北方領土に関する標語最優秀作品)